

特別支援学級 国語科学習指導略案

自閉症・情緒障害特別支援学級（あすなる学級1組）

7人（1年男子2人女子1人，2年男子4人）

指導者 木原 正晶

1 単元名 ものがたりをたのしもう（教材1年「くじらぐも」2年「お手紙」光村図書1・2年下）

2 単元の目標

- 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。 【知識及び技能(1)ク】
- 場面の様子や登場人物の行動や会話について想像を広げながら読むことができる。 【C読むこと(1)イ，エ】
- 読み取ったことをもとに，場面の様子や登場人物の行動等が伝わるように音読の仕方を工夫して「あすなるおはなしかい」を開くことができる。 【学びに向かう力，人間性等】

3 単元で育成を目指す「未来の創り手に求められる資質・能力」

表現力	『あすなるおはなしかい』にみんなを招待しよう。」という目的意識をもち、「くじらぐも」，「お手紙」を声の大きさや読む速さ等，表現の方法を工夫して音読する力
協働力	友達と物語の内容等について考えを広げたり深めたりしながら，役割分担など協力して「あすなるおはなしかい」に向けて，活動していく力

4 単元の位置とねらい

本学級は7人の低学年の子供で構成されている。それぞれの子供たちの知的発達や認知特性を考慮して，当該学年もしくは下学年対応の目標や内容を取り入れながら学習に取り組んでいる。その中で，「読むこと」については，1年生は，「おむすびころりん」や「おおきなかぶ」，2年生は，「ふきのとう」や「スイミー」で，役割読みをしたり，動作化したりしながら，登場人物の行動や場面の様子などを想像して読む学習に取り組んできた。意欲的に学習してきたが，言葉をまとまりで捉えられず一文字ずつ辿々しく読んだり，読み飛ばしや思い込みで読んだりすることも多かった。また，想像を広げて読むことが難しいことがあった。

そこで，本単元では，「C読むこと イ 読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして，内容や感想などを伝え合ったり，演じたりする活動」として「あすなるおはなしかい」という言語活動を位置付ける。

「家族や先生を『あすなるおはなしかい』に招待しよう。」とし，家族や先生に聞いてもらうという相手意識をもたせることで，語のまとまりや言葉の響きに気を付けながら音読できるようにする。そして，動作化やペープサートを取り入れたり，思考を視覚化したりすることで，登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読むことができるようにする。さらに，学習したことをもとに，読書月間に合わせて「あすなるおはなしかい」を開くことで，本単元での学習のよさや達成感を味わうことができるようにする。

このような学習を通して，語のまとまりや言葉の響きなどに気を付け，子供たちが，登場人物の行動や会話について想像を広げながら読むことができるようになると，これからの国語科の学習への意欲が更に高まり，言葉の世界が広がっていくものと考えられる。

5 指導に当たって

(1) 「自分のめあて」をもたせる教師の手立て

「つかむ・見通す」過程では，教師が読み聞かせをしたりペープサートを見せたりすることで，活動のゴールをイメージできるようにし，『あすなるおはなしかい』にみんなを招待したい。」という意欲を高め，相手意識をもつことができるようにする。また，登場人物に着目させ音読の工夫を考えていくことで，「自分のめあて」をもつことができるようにする。

(2) 学び合いを活性化させる教師の手立て

「活動する」過程では，各場面の登場人物の行動や会話を動作化したりペープサートで表したりすることで，想像を広げながら読むことができるようにする。また，挿絵や教材文を比べたり並べ替えたりすることで，互いの考えを交流して自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 学びを振り返り，学びを価値づける教師の手立て

「振り返る」過程では，登場人物の行動や会話に着目して想像を広げながらこれまでの音読の工夫を生かして，「あすなるおはなしかい」にみんなを招待することで，本単元での学びの成果を発揮することができるようにする。また，「なぜ音読の工夫ができるようになったか。」という理由を問い，価値付けることで，知識の理解の質を高めることができるようにする。

6 指導計画 ※次ページに記載

7 本時（5/11）

前時までに，場面の様子や登場人物の行動や会話について想像を広げながら音読を続けてきた。

(1) 目標

登場人物の行動や会話文に着目して，想像を広げながら読むことができる。

個人目標	A児(1年)	ジャンプの高さの叙述をもとに登場人物の気持ちの変化に気付くことができる。
	B児(1年)	教師や友達と一緒に，繰り返しの会話文の違いに気を付けて，音読することができる。
	C児(1年)	教師や友達と一緒に音読したり動作化したりすることで，登場人物の気持ちの変化に気付くことができる。
	D児(2年)	場面の様子や登場人物の行動や会話をもとに想像を広げ，気持ちの変化に気付くことができる。
	E児(2年)	教師や友達と一緒に，登場人物の行動や会話文に着目しながら，音読することができる。
	F児(2年)	場面の様子や登場人物の行動や会話文をもとに，気持ちの変化に気付くことができる。
	G児(2年)	教師や友達と一緒に，地の文，会話文の違いに気を付けて音読することができる。

6 指導計画(総時数 11 時間)

これまで習得した既得の知識	
①	物語の場面ごとに、登場人物の様子を想像したり、動作化をしたりして読むことができる。
②	物語を読んで、自分の好きな場面や印象に残った場面を見付けることができる。

過程(年)	見聞	1年生 主な学習活動	知識の理解の質の高まり	2年生 主な学習活動	授業外での評価
つかむ・見通す(2)	登場人物の行動や会話・場面の様子・場面の様子と移り変わり・特別な言葉・関係付け	1 「くじらぐも」に関心をもち、学習課題を設定し、学習計画を立てる。①② 「あすなるおはなしかい」にみんなを招待しよう。	音読の練習をして、おはなしかいを頑張るぞ。 子供たちとくじらぐもは、「いつ、どこで、どうして」出会ったのかな。	1 「お手紙」に関心をもち、学習課題を設定し、学習計画を立てる。①② 「あすなるおはなしかい」にみんなを招待しよう。	家庭 (家庭学習) 語のまとまりに気を付けて音読することができたか。
		2 「くじらぐも」を読み、場面の様子を想像し、読みのめあてを見付ける。①② 3 「子供たちとくじらぐもの出会い」について考え、解決する。①②① 4 「子供たちとくじらぐもが声を掛けあう様子」について考え、解決する。①②① 5 「くじらぐもに飛び乗ろうとする子供たちの様子やそれを応援するくじらぐもの様子」について考え、解決する。①②① 6 「くじらぐもに乗って空を旅する子供たちの様子」について考え、解決する。①②① 7 「くじらぐもと別れる子供たちの様子」について考え、解決する。①②① 8 「くじらぐも」の話から面白かったところや好きなどころなどの感想をまとめ、友達と交流する。①②①② 9・10 「あすなるおはなしかい」に向けて音読練習をする。①②①②	4 時間目の体育の時間に空に大きくくじらぐもは、あらわれたんだね。 とびたい気持ちが大きくなっているから、声の大きさもだんだん大きくなった方がいと思うな。 登場人物のしたことや言ったことを詳しく読むと、そのときを考えることができるね。 1年2組の子供たちは楽しそうだったから、「くじらぐもさん、また来てね。」と言っていると思うな。 音読に合わせて動きも付けて、聞いてくれる人が楽しい音読発表会にしよう。	2 「お手紙」を読み、人物の行動や会話から、読みのめあてを見付ける。①② 3 「悲しい気分である二人の様子」について考え、解決する。①②① 4 「かえるくんががまくんのためにしてあげたこと」について考え、解決する。①②① 5 「待ちきれないかえるくんと悲観的ながまくんの様子と気持ちの変化」について考え、解決する。①②① 6 「幸せな気持ちでお手紙を待つ座っている二人の様子」について考え、解決する。①②①② 7 「手紙が届いた時の二人の様子」について考え、解決する。①②①② 8 「お手紙」の話から面白かったところや好きなどころ、自分と比べたことなどの感想をまとめ、友達と交流する。①②①② 9・10 「あすなるおはなしかい」に向けて音読練習をする。①②①②	
振り返る(3)					支援学級 (学級活動) 自分ががんばったことを発表することができたか。

本単元で習得が期待される概念的な知識	
①	物語の移り変わりをとらえ、行動や会話文から登場人物の気持ちを想像して読むことができる。
②	物語の内容と自分の経験とを結び付けながら読むことができる。

新たな学び

1年生 教材名「ずうっと ずっと大好きだよ」
○ 読みたい本を選び、登場人物の行動を中心に想像を広げ、好きなどころを見つけながら読むことができる。
○ 物語の好きなどころを書いたり、友達の書いたものを読んで感想を伝え合ったりすることができる。
2年生 教材名「わたしはおねえさん」
○ 登場人物の行動をとらえて想像を広げながら読み、自分の経験と結び付けて考えをまとめることができる。
○ 文章の中の大事な文や言葉を書き抜き、あらすじをまとめることができる。

③ 展開 教師の言葉掛け 子供の反応 聞く, 話す, 見る, 動くは「学び」を充実させるための活動 評価に関すること

過程 (分)	主な学習活動と予想される子供の反応		教師の手立て		主な学習活動と予想される子供の反応
	1 年生		2 年生		
つかむ・見通す (15)	1 学習の流れを確認する。見る	○ 本時の学習の流れを確認し提示しておくことで、見通しをもって学習を進めることができるようになる。	○ 単元マップを提示することで、これまでの活動を想起し本時への見通しをもつことができるようになる。	○ これまでの活動を振り返ることで、音読の工夫を確認したり、「あすなろおはなしかい」への意欲を高めたりすることができるようにする。	○ 語のまとまりに気を付けて、繰り返し音読練習をすることで、内容を正しく理解できるようにする。
	2 前時までの学習を振り返る。				
	3 本文の音読をする。				
	4 本時のめあてを確認する。				
活動する (20)	3回出てくる「天までとどけ、一、二、三」を工夫して音読しよう。	○ 文字の大きさを変えた会話文「天までとどけ、一、二、三」を大きい方から順番に黒板に並べ、文字の大きさに合わせて徐々に声を小さくしながら教師が読んだ後、「みんなで空に向かってジャンプする場面だね。この読み方でよいかね。」と尋ねることで、自分の問いをもつことができるようにする。	○ 二つの会話文「でも、来やしないよ。」、「とてもいいお手紙だ。」を提示し、不幸せか幸せのどちらか考えさせた後、「がまくんの気持ちに気を付けてどんな工夫をして音読すればよいかね。」と問うことで、自分の問いをもつことができるようにする。	○ 三つの会話文「でも、来やしないよ。」、「とてもいいお手紙だ。」を提示し、不幸せか幸せのどちらか考えさせた後、「がまくんの気持ちに気を付けてどんな工夫をして音読すればよいかね。」と問うことで、自分の問いをもつことができるようにする。	
	3回とも同じ読み方でよいかね。どんな工夫をして音読したらよいかね。	○ 三つの会話文「でも、来やしないよ。」、「とてもいいお手紙だ。」を提示し、不幸せか幸せのどちらか考えさせた後、「がまくんの気持ちに気を付けてどんな工夫をして音読すればよいかね。」と問うことで、自分の問いをもつことができるようにする。	○ 二つの会話文「でも、来やしないよ。」、「とてもいいお手紙だ。」を提示し、不幸せか幸せのどちらか考えさせた後、「がまくんの気持ちに気を付けてどんな工夫をして音読すればよいかね。」と問うことで、自分の問いをもつことができるようにする。	○ 三つの会話文「でも、来やしないよ。」、「とてもいいお手紙だ。」を提示し、不幸せか幸せのどちらか考えさせた後、「がまくんの気持ちに気を付けてどんな工夫をして音読すればよいかね。」と問うことで、自分の問いをもつことができるようにする。	
	5 それぞれのめあてをもとに工夫して音読する。	○ 個に応じた具体的な手立て	○ 具体的な手立て	○ 具体的な手立て	
	(1) 自分で音読の工夫を考える。見る ・ 音読の順番とその理由を考える。	A児 ジャンプの高さの違いが分かる叙述に着目させることで、登場人物の気持ちの変化に気付かせ、工夫して音読することができるようにする。	D児 がまくんやかえるくんの気持ちの変化が分かる叙述に着目させることで、想像を広げながら音読することができるようにする。	E児 がまくんが言った会話文を確認させることで、がまくんの気持ちを意識しながら音読することができるようにする。	
振り返る (10)	6 本時の活動を振り返り学習のまとめをする。	B児 友達や教師と一緒に、会話文を動きながら音読したり、掲示している会話文を飛んだ高さに合わせて上げたり下げたりすることで、繰り返しの会話文の違いに気付くことができるようにする。	F児 がまくんの気持ちが叙述してある会話文を比べさせることで、気持ちの変化に気付くことができるようにする。	G児 地の文、登場人物の会話文ごとに色分けした教科書とがまくんの気持ちを選択するワークシートを活用することで、がまくんの気持ちの変化に気付くことができるようにする。	
	ジャンプしたり、声の大きさを変えたりしながら、工夫して音読ができました。	C児 友達や教師と一緒に、動作化しながら音読することで、登場人物の気持ちの変化に気付くことができるようにする。			
	7 次時の学習について知る。	○ 「やっと三十センチ」、「こんどは五十センチ」、「いきなり、かぜが、みんなを空へふきとばしました」などの叙述に着目させることで、3回の「天までとどけ、一、二、三」をどのように読むか考えることができるようにする。	○ がまくんの会話文のカード（「でも、来やしないよ。」と「とてもいいお手紙だ。」）を掲示し比べさせ、「どうしてがまくんの気持ちが「ふしあわせ」から「しあわせ」へと変化したのかな。」と尋ねることで、がまくんの気持ちを変化させた手紙の存在に気付くことができるようにする。	○ がまくんの動きを考え動作化しながら音読することで、がまくんの気持ちを想像することができるようにする。	
	子供たちの飛びたい気持ちが大きくなっているところを工夫して音読することができましたね。	○ ホワイトボードに順番を考えて貼っている会話文のカードを子供の発言をもとに上下にずらすことで、飛んだ高さや気持ちの高まりを視覚化することができるようにする。	○ 1年生全員で手をつなぎ声に出して音読することで、「みんなが空へ飛ぶことができた3回目を一番元気に読みたい。」という考えを動作化することができるようにする。	○ 「登場人物の気持ちのどんなどころに気を付け音読することができましたか。」と尋ねることで、今日の学習を振り返り、叙述をもとにして想像を広げ、中心人物の気持ちの変化に気付けたことを確認する。	

